

平成 23 年 9 月 2 日  
石油資源開発株式会社

東日本大震災被災地区での当社従業員ボランティア活動（第四回目）について

当社は、従業員による東日本大震災被災地域での復興支援ボランティア活動に対して積極的な支援を行うこととしていますが、このたびその第四回目の復興支援ボランティア活動を実施致しましたのでお知らせします。今回の活動では本社からの参加者に加えて長岡鉱業所勤務の従業員も参加しました。

記

第 4 回目のボランティア活動概要

(1) 実施日：平成 23 年 8 月 29 日

(本 社：8 月 28 日 東京発～8 月 30 日東京着)

(長岡鉱業所：8 月 28 日 長岡発～8 月 30 日長岡着)

(2) 場 所：宮城県本吉郡南三陸町

(3) 参加者：当社、当社グループ会社の従業員およびその家族

本社 38 名、長岡鉱業所 22 名 合計 60 名（男 56 名、女 4 名）

(4) 活動内容：南三陸町ボランティアセンターの指導の下、次の作業を実施。

① 志津川地区住宅地の側溝の土砂、瓦礫撤去作業

② 海岸付近での土嚢作り

③ 志津川地区のホームセンター跡地の瓦礫撤去および分別作業

<ご参考>

参加者の声（別紙）

以 上

参加者の声 ～ボランティア活動に参加して～ IV



南三陸町災害ボランティアセンターにて

\* 作業中の写真撮影が制限されていたため、撮影が許可された土嚢作りの写真のみ掲載します。



私の作業班は、海岸付近の地域にて、総勢 30 名で側溝の土砂・瓦礫撤去作業を行いました。この日に行なった作業量に対し、はかり知れない規模の被害をもたらした津波の力の大きさや怖さを実感しました。

今回の活動はほんの小さな力でしかなかったかもしれませんが、復興のためには、この小さな力の積み重ねが大切だと強く感じました。この機会をきっかけに私自身、微力ですが、今後も復興へ向けた協力をしていきたいと思えます。

(男性社員:25 歳)

長岡メンバーが行なった作業は、ボランティアセンターから程近い山に囲まれた志津川地区での瓦礫撤去及び分別作業でした。周りには津波によって壊された家屋の基礎や瓦礫の他、折れた電柱しか残っていませんでした。行なった作業は単純でしたが、とても体力を要するもので、午前が終わるころには作業衣に汗が広がっていました。それでも交代しながらの継続作業やバケツリレーなど、チームワークにより予定していた作業を時間内に終えることができました。

1 日かけて片付けた作業エリアを見て達成感を感じながらも、帰りのバスから見る被災地は、まだまだ復興の道のは果てしなく、これからも継続した支援が必要だと思いました。

(男性社員:21 歳)

志津川湾すぐ近くの住宅地の一角で、土砂や瓦礫等の詰まった側溝を掘り起こす作業を行いました。震災後から手を付けていない瓦やブロック等の交じる土砂は硬く、スコップとツルハシを用いながらの懸命な作業でしたが、何とか側溝を元の姿に戻す事ができました。30 人程で一日作業を行い十数mの側溝を掘り起こす事ができたと思う反面、それ程の人手と時間が掛かる作業なのだと、『復興』と言う言葉の重さを感じます。一日も早い被災地の復興を願い、これからも復興活動支援を行っていきたいです。

(女性社員:30 歳)